

## 研究ノート

## 臨床で男性看護師が経験する女性看護師との差異

北林 司<sup>1)</sup>・萩原英子<sup>1)</sup>・鈴木珠水<sup>1)</sup>・福島成貴<sup>1)</sup>  
 小野寺 綾<sup>1)</sup>・五十嵐 裕<sup>1)</sup>・宮城英紀<sup>1)</sup>・町田 烈<sup>1)</sup>

## The difference with female nurse when the male nurse experiences by the clinical field

Tsukasa KITABAYASHI<sup>1)</sup>, Eiko HAGIWARA<sup>1)</sup>, Tamami SUZUKI<sup>1)</sup>, Masaki FUKUSHIMA<sup>1)</sup>  
 Aya ONODERA<sup>1)</sup>, Hiroshi IGARASHI<sup>1)</sup>, Hideki MIYAGI<sup>1)</sup>, Tsuyoshi MACHIDA<sup>1)</sup>

## はじめに

歴史的に「看護」という職業には、白衣の天使を象徴とした女性の職業という社会的イメージがある。近年、男性の看護職への参入が増加しつつある。しかし、平成16年度の日本看護協会の統計によると、男性看護師の比率は看護職全体の約4.5%という少数の存在である<sup>1)</sup>。

これまでの男性看護師に関する研究動向をみると、1) 瀧川らが質問紙調査で明らかにした、男性が看護に参入する動機や勤務部署に関するもの<sup>2)3)</sup>。2) 中川らが質問紙調査で明らかにした、男性が看護職に参入する上での困難に関するもの<sup>4)~6)</sup>。3) 安岡らが質問紙調査で明らかにした、看護職に参入する男性に対するイメージに関するもの<sup>7)~9)</sup>。4) 山崎が史料に基づいて明らかにした、男性看護師の歴史に関するもの<sup>10)~13)</sup>。5) 北林が面接調査で明らかにした、女性が多数を占める環境で働く男性看護師自身の認識に関するもの<sup>14)</sup>がある。しかし波多野らは、わが国における男性看護師に関する研究はこれからであり、まだ明らかでない部分が多いと述べている<sup>15)</sup>。

そこで本研究は、女性が多数を占める看護師の中で、少数派の男性看護師が臨床でどのような経験をしているか明らかにすることを目的とした。

## 研究方法

## 1. 研究期間

平成18年4月—平成18年12月

## 2. 研究デザイン

個人の経験を理解し、その意味を探究することに適している、質的研究の現象学的方法を用いた。

## 3. 対象

群馬県内の病院に勤務している男性看護師5名とした。

## 4. データ収集方法

雪玉式サンプリングによる半構成的面接法で面接時にテープレコーダーを用いて録音した(表1)。このとき、研究者自身が測定用具となるため、面接実施前にロールプレイングを行い、「聞き役に徹しているか」「意図的に答えを誘導していないか」をチェックして修正した。

表1 半構成的質問内容

1. 看護師になって何年目ですか。
2. これまで経験した勤務部署はどんな部署ですか。
3. 看護師になろうと思ったきっかけはどのようなものでしたか。
4. 男性であることで困ったことはありますか。
5. 男性であることで良かったと思うことはありますか。
6. 男性看護師が少ないことをどう思いますか。
7. 女性看護師と異なる仕事を与えられたことはありますか。
8. 男性看護師と女性看護師では仕事の内容に違いはありますか。

1) 群馬パース大学

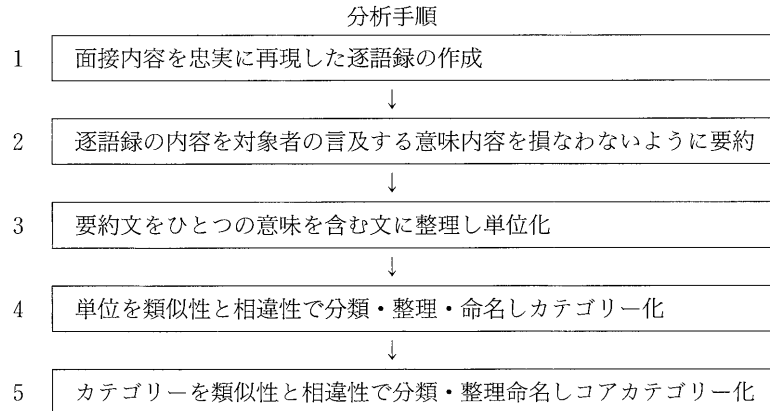


図1 データ分析過程

## 5. データ分析方法

録音された面接内容を文章データに変換し、Krippendorff の内容分析を行った<sup>16)</sup>。本研究の分析手順は次のとおりである（図1）。

- 1) 録音内容を忠実に再現した逐語記録を作成した。
- 2) 逐語記録の内容を、対象者の言及する意味内容を損なわないように要約した。
- 3) さらに要約文を、ひとつの意味内容を含む文脈ごとに整理し1単位とした。このとき、明らかに本研究の目的に関係ないと思われるものは分析の対象からはずした。
- 4) 単位ごとに類似性と相違性で分類・命名カテゴリーとした。
- 5) さらにカテゴリーを同様の手順で分類・命名しコアカテゴリーとした。これを「臨床で男性看護師が経験した女性看護師との差異」とした。
- 6) これらの各段階において、研究者間で全員が合意するまで討議し、合意に至らなかったものは取り扱わないこととした。

### 倫理的配慮

面接前に説明文と口頭で研究の目的とデータは研究者以外取り扱わないこと、個人が特定されることのないように保証すること、いつでも協力を取り消すことができることを説明し同意書に署名していただいた。

## 結果および考察

### 1. 対象者の属性

対象者の平均年齢は、39.2歳、看護師としての平均経験年数は14年であった。勤務する施設の概要および勤務部署は、全員が150床以上の一般病院の一般病棟であった。役職は、看護師長2名、役職なし3名であった。

### 2. 臨床で男性看護師が経験する女性看護師との差異

全598単位から研究目的と無関係と思われるもの、研究者間で合意に至らなかったもの131単位を除外し、467の単位から18のカテゴリーを抽出した。さらにカテゴリーを意味内容の類似性と相違性で分類したところ《女性患者から敬遠される》《男性患者や男性職員から信頼される》《男性看護師に対する社会の偏見がある》《女性看護師との関係維持に苦心する》《腕力を期待される》《機械類の取り扱いを期待される》《リーダーシップの発揮を期待される》《男性看護師は簡単に辞めない、休まない》《男性看護師は良くも悪くも目立つ存在》《限定される勤務場所》という10のコアカテゴリーが抽出され、これを臨床で男性看護師が経験した女性看護師との差異とした（表2）。

以下に各コアカテゴリーテーマを提示し、事例をあげて説明する。

尚、カテゴリーを〔 〕で、コアカテゴリーを《 》で示す。

#### 1) 《女性患者から敬遠される》89単位

このコアカテゴリーは、〔女性患者からの拒否〕〔女性患者へのケアは恥ずかしい〕〔女性患者には遠慮する〕のカテゴリーによって構成された。対象者らは、女性患者から拒否されるという経験をしていた。もと

表2 コアカテゴリー・カテゴリー

	コアカテゴリー	単位・割合	カテゴリー
1	女性患者から敬遠される	89単位 19.2%	女性患者からの拒否 女性患者のケアは恥ずかしい 女性患者には遠慮する
2	男性患者や男性職員から信頼される	25単位 5.4%	男性患者と良好な関係 他の男性職員との信頼関係
3	男性看護師に対する社会の偏見がある	84単位 18.1%	看護は女性の職業と思われている 看護師だと言うと変な目で見られることがある
4	女性看護師との関係維持に苦心する	69単位 14.9%	女性看護師とのコミュニケーションに気を遣う 女性看護師とはトラブルになりやすい
5	腕力を期待される	32単位 6.9%	力仕事はだいたい男の仕事 精神科では用心棒的な役割
6	機械類の取り扱いを期待される	15単位 3.2%	機械類の取り扱いを期待される
7	リーダーシップの発揮を期待される	16単位 3.5%	リーダーシップの発揮を期待される
8	男性看護師は簡単に辞めない、休まない	32単位 6.9%	男性看護師は簡単に辞めない 男性看護師は結婚しても辞めない
9	男性看護師は良くも悪くも目立つ存在	36単位 7.8%	男性看護師は良くも悪くも目立つ存在
10	限定される勤務場所	69単位 14.9%	男性看護師の勤務場所は精神科 男性看護師の勤務場所は限られている

もと社会には男性と女性を区別して扱う通念があり、男性は女性に対して、女性は男性に対して遠慮や羞恥心を抱くなどの土壌がある。

男性看護師は、このような拒否が度重なることで、いっそう女性患者に対するケアに恥ずかしさや遠慮を感じるようになっていったと推察される。

対象者No.1 :

「結構高齢の方でも、ケアに関してはちょっと他の人  
にお願いできるかいとか言ってくる人もいます」

対象者No.5 :

「私は全然なんとも思っていないんだけどね。患者さん  
の方から、女の人にやってもらいたいということはありますね」

対象者No.3 :

「女性患者さんの陰部に関するケアは、自分の方から  
女の看護師に替わってくれてお願いすることもあります」

## 2) 《男性患者や男性職員から信頼される》25単位

このコアカテゴリーは、〔男性患者との良好な関係〕  
〔他の男性職員との信頼関係〕などのカテゴリーによ  
って構成された。対象者らは、男性同士で共通する  
趣味や価値観によって男性患者や男性職員との関係構  
築がうまくいきやすいことを語った。同様の結果が北

林の研究によっても明らかにされている<sup>14)</sup>。

対象者No.2 :

「男性患者さんと波長が合ったときには、女性の看護  
師以上に信頼されて、頼ってもらえたりしますね」

対象者No.1 :

「ドクターも同じ男ってことで意見を交わしてくれ  
ることが多いですね。そのせいか信頼関係も築きやす  
いです」

## 3) 《男性看護師に対する社会の偏見がある》

84単位

このコアカテゴリーは、〔看護は女性の職業と思われ  
ている〕〔看護師だと言うと変な目で見られることがあ  
る〕のカテゴリーによって構成された。アメリカ、カナ  
ダ、オーストラリアの研究結果からも、看護は女性  
の職業であるというイメージが定着していることや、  
男性看護師に対して「ゲイ」「変わり者」といった偏見  
が存在するという報告がある<sup>17)</sup>。このような偏見は、看  
護に参入しようとする男性を阻む要因となり好ましく  
ない。

対象者No.4 :

「一般の人からすれば看護師は女性というイメージが  
ある」

対象者No.2 :

「医師と間違えられることが多くて、看護師だとすると変な目でみられることがありますね」

#### 4) 《女性看護師との関係維持に苦心する》69単位

このコアカテゴリーは、〔女性看護師とコミュニケーションに気を遣う〕〔女性看護師とはトラブルになりやすい〕などのカテゴリーによって構成された。人間関係の調整は、どのような職種においても重要なことであるが、対象者らは多数派の女性看護師との関係維持に苦心していることがわかった。

対象者No.3 :

「仕事だけの関わりだけではうまくいかないの、みんな遊びにいったりとか気を遣いますね」

対象者No.1 :

「女性看護師と仲良く話をしていると、まわりから変な風に思われたり、噂をたてられたりします」

#### 5) 《腕力を期待される》32単位

このコアカテゴリーは、〔力仕事はだいたい男の仕事となっている〕〔精神科では用心棒的な役割〕などのカテゴリーによって構成された。わが国の男性看護師は、50%が精神科の領域で勤務している<sup>6)</sup>。欧米の精神科病院でも、1950年代に向精神薬（クロルプロマジン）が開発されるまで、多くの男性看護師が配置されていた。男性看護師が精神科領域に配置される理由としては、興奮する患者を制圧するための腕力が期待されていたものと推察される。精神科領域以外で勤務する男性看護師においても、力仕事の担い手としての期待感が存在することが推察される。

対象者No.5 :

「入浴介助とか移乗とかではいつも呼ばれます。あと重たい荷物の運搬なども自然と男がやることになります」

対象者No.3 :

「精神科では暴れる患者を抑えたり、女性看護師の用心棒みたいな存在になっています」

#### 6) 《機械類の取り扱いを期待される》15単位

このコアカテゴリーは、〔機械類の取り扱いを期待される〕というカテゴリーから導かれた。北林の研究結果でも、男性は機械に強いという周囲の固定観念が男性看護師への役割期待に反映していることを示している<sup>14)</sup>。しかし、対象者らはこのような思い込みに抵抗感を抱いていると推察される。

対象者No.3 :

「機械類の取扱いは、だいたい男の仕事ですね。男だったら誰でも機械に詳しいと思われています」

対象者No.2 :

「男だから機械が使えるんじゃないかって単純な発想があると思います。僕は機械類はまったく苦手なんです」

#### 7) 《リーダーシップの発揮を期待される》16単位

このコアカテゴリーは、〔リーダーシップの発揮を期待される〕というカテゴリーから導かれた。対象者らは、男性看護師は職場において女性看護師をフォローして、リーダーシップを発揮しなければならないことを意識している。社会通念上、女性性に対するイメージとして「やさしさ」「気配り」「思いやり」などがある。一方、男性性に対するイメージには「判断力」「実行力」「指導力」などがあり、このような社会通念が男性看護師をとりまく周囲の人々に求められ、男性看護師自身も意識しているものと推察される。

対象者No.1 :

「男性がやらなきゃという雰囲気が出来上がっている気がする」

対象者No.5 :

「女性と仕事をしていると男性がリードしなければならないという使命感がわいてくる」

#### 8) 《男性看護師は簡単に辞めない、休まない》

32単位

このコアカテゴリーは、〔男性看護師は簡単に休まない〕〔男性看護師は結婚しても辞めない〕というカテゴリーから構成された。対象者らは、男性看護師は女性看護師に比べて、簡単に休まないことや、結婚を機に仕事を辞めることがないため、安定した組織運営に貢献していることを主張していた。男女雇用機会均等法が施行されて久しいが、これは家庭経済の中心が男性であることの証でもあり、男性が休業できないために女性が育児休業制度を活用するか、退職せざるを得ない実情を反映しているとも考えられる。

対象者No.2 :

「男性には生理休暇もないし、参観日などで休むことは滅多にない」

対象者No.5 :

「私立病院が男性看護師の募集をかけているのは、男性は生計をたてるために簡単に辞めないからだ」

#### 9) 《男性看護師は良くも悪くも目立つ存在》

36単位

このコアカテゴリーは、〔男性看護師は良くも悪くも目立つ存在〕というカテゴリーから導かれた。対象者らは、女性看護師が多数を占める看護界において、少

数の男性看護師は目立つ存在であることを意識していることが推察される。男性が多数を占める職業において女性が目立つのと同様に、女性が多数を占める職業で男性が目立つのは当然といえる。しかし、性差によって役割や評価に差が生じることは好ましくない。今後男性看護師は低い割合で推移すると考えられたため、目立つことを役割遂行のために利用するという発想の転換も必要である。

対象者No.4 :

「男性は数が少ないのでいいときも悪いときも目立ってしまいます」

対象者No.3 :

「研修会などでも女性の中で黒一点などといわれることが多いです」

#### 10) 《限定される勤務場所》69単位

このコアカテゴリーは、〔男性看護師の勤務場所は精神科〕〔男性看護師の勤務場所は限られている〕などのカテゴリーによって構成された。対象者らは、男性であることで、勤務部署が限定されることに抵抗を示していた。現在、わが国の男性看護師の勤務部署は、約50%が精神科領域であり、次いで手術室・透析室がそれぞれ約7%である<sup>6)</sup>。しかしながら、男性看護師の増加に伴って、これまでの伝統的な男性看護師の勤務部署は次第に飽和状態へと向かうと考えられる。このため、今後は一般病棟への配置が促進されるものと推察される。

対象者No.1 :

「いまは一般病棟にも男性看護師が配置されるようになったけど、だいたい男は精神科勤務って決まっています。同じ看護師なんだから区別されているのは嫌ですね」

対象者No.2 :

「精神科以外では手術室とか透析室とかが男性看護師の勤務場所ですね。それ以外を希望してもなかなか配置してもらえませんでした」

## 結 論

本研究において以下の知見を得た。

1. 臨床で男性看護師が経験する女性看護師との差異として、《女性患者から敬遠される》《男性看護師に対する社会の偏見がある》《男性患者や男性職員から信頼される》《女性看護師との関係維持に苦心する》《腕力を期待される》《機械類の取り扱いを期待される》

る》《リーダーシップの発揮を期待される》《男性看護師は簡単に辞めない、休まない》《男性看護師は良くも悪くも目立つ存在》《限定される勤務場所》という認識があった。

2. 男性看護師は、業務内容において女性看護師と区別されることに抵抗を抱いている。

## お わ り に

本研究では、少数派である男性看護師が、臨床において女性看護師との差異を認識している現状が明らかになった。看護が男性と女性が参加する専門職であるためには、性別による役割区分を改善していく事が重要である。

本研究の限界は、対象を男性看護師に限定して行ったため女性看護師や女性患者からの意見が反映されていないこと。また、対象者が群馬県内の一般病院に勤務する5人の男性看護師であったため、結果を一般化することは難しいことである。今後の課題として、対象地域を拡大すること、データ分析の信用可能性、明確性、移転可能性を強化することである。

## 謝 辞

本研究を行うにあたり、調査にご協力いただきました情報提供者の皆様に深く感謝いたします。

## 引 用 文 献

- 1) 厚生省健康政策局看護課：平成16年度看護関係統計資料集。日本看護協会出版会、2005；12
- 2) 瀧川 薫、草刈淳子、川口孝泰：大学病院に勤務する看護師の実態調査—職務の現状と看護職選択の経緯—。病院管理 1994；1：41-49
- 3) 波多野梗子、斉藤やよい、小野寺杜紀：男子看護学生による職業選択の経緯。日本看護研究学会雑誌 1993；17：77-78
- 4) 中川孝順、若島陽子、下条由美、石倉治子、中井淑子、相沢幸子、村山律子、竹川敏美：看護師とバーンアウトとの関連の検討。看護総合 1996；27：156-158
- 5) 百田武司、鈴木正子：男子看護者の抱える問題。看護学雑誌 1998；3：280-283
- 6) 山本善博、山野祐二、高田祐治、後田 稔：K大

- 学病院に勤務する看護師の職務意識とストレスとの関係—聞き取りアンケートによる実態調査より—。日本看護研究学会雑誌 1998；3：189
- 7) 安岡満利子、北池 正、原田真澄、牧野尚子、山崎典子、江田恵子：看護における男性の進出に関する研究(1) 男性と男性イメージについて。日本看護研究学会雑誌 1996；19：92-93
- 8) 菅野美江子：看護師への役割期待—K大学病院における調査を通じて—。看護管理 1996；27：74-77
- 9) 牧野尚子、北池 正、池田公子、山崎典子、安岡満利子、原田真澄：看護における男性の進出に関する(4) 総婦長から見た看護師のイメージについて。日本看護研究学会雑誌 1997；20：57-58
- 10) 山崎祐二：近代看護史の中の男性看護者(1) 明治初年～10年代の陸軍と博愛社。日本赤十字社武蔵野短期大学紀要 1997；8：103-112
- 11) 山崎祐二：近代看護史の中の男性看護者(2) 日清戦争における日本赤十字社の看護人。日本赤十字社武蔵野短期大学紀要 1996；9：79-88
- 12) 青木正康：近代日本における男子看護職の変遷。日本看護研究学会雑誌 1997；20：57
- 13) 山崎祐二：明治29年～36年における日本赤十字社の準備看護人養成と卒業後の動向—近代看護史のなかの男性看護者(3)。日本赤十字社武蔵野短期大学紀要 1998；10：75-99
- 14) 北林 司：男性看護師が認識する男性であることの特異性—X県におけるインタビュー調査から。看護学雑誌 2002；1022-1027
- 15) 波多野梗子、小野寺杜紀：わが国における看護師研究の課題と方向。看護研究 1991；24：85-95
- 16) Krippendorff K.: Content analysis: an introduction to its methodology. Beverly Hills Sage Publications, 1980; 49-119
- 17) Evans J.: Men in Nursing, issues of gender segregation and hidden advantage. Journal of Advanced Nursing 1997; 26: 226-231